

地区社協
だより

村 国 の 郷

第53号
編集・発行
各務地区社会福祉協議会



「コロナ収束に望み託して」

本年度事業を徐々に実施へ

各務地区社会福祉協議会 会長 長縄 秀平



日頃は当会の活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

長引くコロナ禍

で、私たちの生活もすっかり変わった感があります。外出時のマスク着用は当たり前、スーパーでも飲食店でも手指消毒やデイスタンスの確保。そんな中、外出が少なくなつた、知り合いに会う機会が減つたという人も少なくありません。このような状態が今後も続くようになれば、人間関係づくりにおっくうになる方が出てくるかもしれません。早く元の生活に戻りたいものです。

昨年度の当会の事業はほとんどが中止に追い込まれ、会議や研修をはじめ主だった行事も出来ませんでした。今年度の事業計画をどうすべき

か、大変悩ましいところでしたが、ワクチン接種も進みつつありますので、コロナ収束に望みを託して秋以降に集中して行う計画を立てました。

「地域ふれあい広場」は毎年十か所の公民館を巡回して色々なメニューを行っていますが、このような状況のため過密なスケジュールになりました。日程やプログラム内容も含め、該当自治会等と連携して進めて行ければと考えております。

計画の中には「地域コミュニティ会議」が組んであります。各務原市では昨年度から第四次地域福祉計画・活動計画が始まっており、その一環で行うものですが、地域でのつながり作りや身近な支え合い活動の創出に向けた話し合いをするものです。当地区の目指す姿「ふれあい・

ささえあい・たすけあい・ぬくもり溢れるまちをめざします」の達成に向け、実施できる事業の立案、及び既存実施事業の目的等を再認識し、地区社協活動を見つめなおす機会とするものです。理事の皆様の参加を予定しておりますので宜しくお願致します。

「御園座でおがせ音頭」は再延期に

昨年の九月、全国詞曲音楽連盟が主催する歌謡フェスタが御園座で開催される予定でした。この中で、当会のプロジェクト「歴史で広がる郷土の福祉」の一環で誕生した「おがせ音頭」を外山貴一さんが歌うことになっていました。コロナ禍で今年の五月に延期されましたが、再び延期となってしまいました。

名古屋・御園座の大舞台で『おがせ音頭』が歌われ踊られるとあって大いに喜んでいたので残念です。中止ではなく延期なのでいずれ開催されるものと期待しています。

ボ ラン タ リ ー ハ ウ ス

事業名	活動日時	場所
さくら会北島	毎月1回 (第1火曜日 11:30~)	北島団地公民館
Q.O.L.	毎週2回 (月曜日・金曜日 13:30~)	山の前公民館
結の会	毎月3回 (第2第3月曜日他 10:00~)	須衛公民館
庵(いおり)	毎月1回 (第1日曜日 9:30~)	デイサービス庵
かいもとふれあいハウス	毎月1回 (最終月曜日 10:00~)	会本公民館
地域ふれあい広場	巡回型 10月から毎月1回~2回 (13:30~)	公民館10ヶ所

ボランティアハウスは、地域の人々が閉じこもらないように集まり、楽しく交流することを目的としています。定期的に開催することで、地域のささえあい・たすけあいの輪が広がります。コロナ禍で時短開催したり中止を余儀なくされることも度々ありましたが、元通り開催できますように。

今年度の主な事業

月	日	曜	事業名	場 所	備 考
4	20	火	地区社協スマートフォン研修会	産業文化センター	市社協主催
	27	火	自治会連合会長・地区社協会長合同会議	中央図書館	市社協主催
5	1	土	近隣ケアグループ研修会	<中止>各グループへ資料送付	
	8	土	第1回 理事会	<中止>書面審議(役員人事、事業計画、予算計画)	
	18	火	地区社協会長・福祉推進員研修会	<中止>	市社協主催
7	1	木	機関紙「村国の郷 第53号」発行	全戸配布	2色刷り6ページ
9	5	日	各務原市福祉フェスティバル	<中止>	福祉フェス実行委員会主催
10	2	土	地域ふれあい広場(山の前)	山の前公民館	
	23	土	地域ふれあい広場(おがせ町第一)	北島団地公民館	
		土	地域コミュニティ会議	各務福祉センター	理事・監事対象
	27	水	岐阜県社会福祉大会	長良川国際会議場	県社協等主催
11	6	土	第7回村国の郷ふれあいの集い	各務小学校体育館	
	14	日	高齢者ふれあい交流	全域	80歳以上の高齢者対象
	20	土	地域ふれあい広場(西北島、南北島、宮之前、 城之屋敷、おがせ町第三)	各務福祉センター	
	未		第55回各務原市社会福祉大会	ブリニーの市民会館	市社協主催
12	2	木	岐阜県ボランティアフェスティバル	東美濃ふれあいセンター	県社協主催
	4	土	地域ふれあい広場(おがせ町第四)	池端公民館	
	18	土	地域ふれあい広場(須衛)	須衛公民館	
R4 1	22	土	地域ふれあい広場(会本)	会本公民館	
2	5	土	地域ふれあい広場(西組第二、船山町東)	温井公民館	
	15	火	地区社協会長・福祉推進員合同会議	市総合福祉会館	市社協主催
	19	土	地域ふれあい広場(西組第一、船山町西)	西組公民館	
	20	日	横断旗設置事業	全域	青少年育成と合同実施
	未		地域福祉推進シンポジウム	ブリニーの文化ホール	市社協主催
3	1	火	機関紙「村国の郷 第54号」発行	全戸配布	カラー刷り、4ページ
	5	土	地域ふれあい広場(東組北)	東部公民館	
	19	土	地域ふれあい広場(おがせ町第五)	おがせ公民館	
	26	土	第2回理事会	各務福祉センター	

<“ふれあい・ささえあい・たすけあい”ぬくもり溢れるまちをめざします>

令和3年度 各務地区社会福祉協議会役員

役職名	氏名	備考
顧問	瀬川 利生	各務原市議会議員
顧問	黒田 昌弘	各務原市議会議員
会長	長縄 秀平	
副会長	足立 鉄男	民生委員児童委員各務小学校区代表
副会長	左高 宏光	各務自治会連合会長、中組区長
副会長	五島 功	西組区長、西組第一自治会長
副会長	長縄 幸弘	東組区長
副会長	足立 猛	須衛区長、須衛第三自治会長(宮東常会長)
副会長	後藤 敏和	青少年育成市民会議小学校区推進委員長 中組副区長
福祉推進員	足立 敏彦	民生委員児童委員
福祉推進員	安藤 敏枝	民生委員児童委員
理事	寺野 稔	民生委員児童委員
理事	深尾三 智夫	民生委員児童委員
理事	塩谷 純二	民生委員児童委員
理事	古田 鎮	民生委員児童委員
理事	長縄 節子	民生委員児童委員
理事	丹羽 邦雄	民生委員児童委員
理事	野中 好子	民生委員児童委員
理事	桑村 多鶴子	ボランティアハウスさくら会北島代表 各務シニアクラブ会長
理事	鈴木由 里子	ボランティアハウスQ.O.L代表
理事	川崎 道子	ボランティアハウス結の会代表
理事	片岡 みか	ボランティアハウス庵代表 近隣ケア川崎団地代表
理事	早川 富保	ボランティアハウス会本ふれあいハウス代表 青少年育成市民会議小学校区推進指導員
理事	堀 善子	中組近隣ケア代表、近隣ケア南北島代表
理事	北川 規子	西組近隣ケア代表 近隣ケア仲の宮さわやか代表
理事	石田 流美	東組近隣ケア代表 近隣ケアたんぼぼ代表(山の前東)
理事	山下裕 美子	須衛近隣ケア代表、近隣ケア須衛第一金場代表
監事	後藤英 一郎	東組副区長、山の前東町内会長
監事	加藤 雅司	須衛副区長
評議員	足立 一	西組副区長
評議員	井戸 邦夫	青少年育成市民会議小学校区推進指導員
評議員	足立 可彦	各務校区体育振興会会長
評議員	上山 美里	各務小学校PTA会長
評議員	山田乃 里子	子ども会育成会会長
評議員	白木 充	ふれあい活動指導員
評議員	早川 貞幸	ふれあい活動指導員
評議員	寺野久 美子	ふれあい活動指導員
評議員	吉田 典子	ふれあい活動指導員
評議員	宇野 一美	ふれあい活動指導員
評議員	森田 鈴子	ふれあい活動指導員
評議員	澤井 昌子	ふれあい活動指導員
評議員	長縄 一男	城之屋敷自治会長

役職名	氏名	備考
評議員	土屋 寿夫	宮の前自治会長
評議員	堀 勝彦	南北島自治会長
評議員	柴山 吉生	西北島自治会長
評議員	内木 茂信	おがせ町第一自治会長 近隣ケア北島団地(おがせ第一)代表
評議員	夏目 憲秀	おがせ町第三自治会長
評議員	足立 貴之	おがせ町第四自治会長
評議員	平松 孝	おがせ町第五自治会長
評議員	廣澤 由弘	西組第二自治会長、温井常会長 近隣ケアたんぼぼ代表
評議員	長縄 治男	金山常会長
評議員	横山 学	仲の宮常会長
評議員	足立 泰徳	駒場常会長
評議員	牧田 信隆	船山町西自治会長
評議員	川尻陽 一郎	船山町東自治会長、近隣ケア船山東代表
評議員	長縄 昭治	洞東常会長
評議員	長縄 嘉孝	洞西常会長
評議員	寺林 一義	川南常会長
評議員	鈴木 剛彦	木戸・宮の前常会長
評議員	五島 佐富	山の前自治会長、山の前西町内会長
評議員	大屋 康児	須衛第一自治会長(金場常会長)
評議員	石田 博美	須衛第二自治会長(向田常会長)
評議員	浅野 久	川崎団地自治会長
評議員	早川 万作	会本自治会長
評議員	足立 英雄	倉屋敷常会長
評議員	深尾 聡	南屋敷常会長
評議員	田口 光行	宮東常会長
評議員	柴山 徳江	近隣ケア西北島代表
評議員	長縄 武司	近隣ケア宮の前代表
評議員	長縄 弘子	近隣ケア城之屋敷代表
評議員	足立 富子	近隣ケアおがせ町第三代表
評議員	清生 さわ子	近隣ケアすいれん代表(おがせ町第四)
評議員	大野 百代	近隣ケアさわやか会代表(おがせ町第五)
評議員	足立 秀幸	近隣ケア金山会代表
評議員	牧田小 百合	近隣ケア船山会代表
評議員	長縄 恵利子	近隣ケアあすなる代表(洞、洞川南)
評議員	鈴木 順子	近隣ケアひまわり代表(木戸・宮の前)
評議員	長縄 純子	近隣ケアすこやか代表(山の前西)
評議員	石田 博美	近隣ケア須衛第二向田代表
評議員	足立 英夫	近隣ケア須衛第二倉屋敷代表
評議員	深尾 智恵	近隣ケア須衛第三南屋敷代表
評議員	田口 美和	近隣ケア須衛第三宮東代表
評議員	早川 博子	近隣ケア会本代表

近隣ケアグループ

近隣ケアグループの活動は、地域において声掛けや見守りを通して支援が必要な人をその地域で支える取り組みです。この活動に活発に取り組むことによって、地域生活において孤立することなく、日々の暮らしを安心して続けることができます。

また、緊急時や災害時にも住民同士が助け合って、早く適切に対応できるようになると期待されます。

現在、各務地区では24グループ145名のボランティアの方が活躍されています。

	グループ名	代表者氏名	グループ員氏名			
西組	仲の宮さわやか(西組第一)	北川 規子	五島 治子	五島のぶ子		
	金山会(西組第一)	足立 秀幸	五島 明子	長縄 和樹		
	船山東(船山町東)	川尻陽一郎	白木 節子	柳瀬恵美子	古池 洋一	藤原 龍男
			伊藤 善			
	たんぼぼ(温井)	廣澤 由弘	佐高 利彦	佐高 憲夫	佐高 正和	木立 昭宏
			黒井 恒廣			
	船山会(船山町西)	牧田小百合	新藤智恵子	卯野真紀子	渡邊 芙美	
中組	北島団地 (おがせ町第一)	内木 茂信	桑村多鶴子	小島 一則	長尾 佳嗣	長谷川末雄
			佐藤 友美	服部 昭子	野中 豊彦	
	西北島	柴山 徳江	柴山 延子	後藤ひとみ	後藤 忠雄	柴山 広野
			柴山 泰子	金武 美杉		
	南北島	堀 善子	早川 理子	鈴木 明子	後藤 栄子	後藤 友美
	宮の前	長縄 武司	澤井 三男	中林 勝	市村 瑞穂	中村 和男
			高田 昭浩	澤井 洋平		
	城之屋敷	長縄 弘子	左高百合子	長縄美穂子	長縄 宏美	左高 富美
			加藤 悦子	山田由紀子	小野木千代子	
	おがせ町第三	足立 富子	中道 定子	足立みどり	足立 直美	後藤由美子
			後藤喜美子			
	すいれん (おがせ町第四)	清生さわ子	長縄多恵子	佐高 潤子	塚田恵理子	塚田 孝子
			林 ツヤ子	榊原 紗世	吉田 洋子	岩月 恵子
		足立千代子	土方久美子	櫻井 弘子	中田 敏子	
さわやか会 (おがせ町第五)	大野 百代	甲野 輝美	大江 芳美	笹原 惇子	藤井 早苗	
		原田佐智子	佐藤 弥生	杉山 典子	石田 純子	
東組	あすなろ(洞、洞川南)	長縄恵利子	長縄八千代	川田 怜子	長縄由美子	金子 旬子
	ひまわり(木戸・宮の前)	鈴木 順子	宇野 文枝	延安いくみ	宇野 裕子	神成 琴江
	たんぼぼ(山の前東)	石田 流美	小椋由香子	高崎 美香	熊野 淳子	五島 照子
			臼井 優佳	小林三代男	神戸 正子	
	すこやか(山の前西)	長縄 純子	五島 一弘	松田 昭寿	長谷川雅仁	小室 義彦
		浅野 忠雄	竹内 都子	酒井 俊之		
須衛	須衛第一 金場	山下裕美子	白木 政江	古田 廣昭	丹羽 真	白木 淳二
			大屋 康児			
	須衛第二 向田	石田 博美	石田 康子	石田 茂	石田 謙司	
	須衛第二 倉屋敷	足立 英夫	川崎 道子	川崎 尚子	八木ヒデ子	
	川崎団地	片岡 みか	服部美和子	三嶋 彩	中原紗恵子	前谷 玲子
			中西 健彦	丸山 照夫	中野 進	
	須衛第三 宮東	田口 美和	田口 光行	金田多佳志	金田 成子	
須衛第三 南屋敷	深尾 智恵	深尾 聰	小林 妙子	小林 和久		
会本	早川 博子	早川 万作	疋田 幸世	疋田 久典		

各務の歴史 連載 ⑧

「徳川将軍も食べた各務須衛の御膳粉」

文：各務原市歴史民俗資料館 長谷 健生

御膳粉とは、江戸時代、将軍を始めとする人々が江戸城の大奥で食べるために献上した米のことです。御膳粉は、美濃国の幕府直轄領で生産する決まりとなっていました。

御膳粉を納めるのは、美濃国の幕領でも各務・加茂・武儀・山県の四郡と決まっていました。四郡以外の美濃の幕領の村々は、この四郡に頼んで代納してもらったり、費用を支払ったりする仕組みになっていました。各務郡の中の各務村・須衛村などは、御膳粉を生産できない村の分まで代わりに作る「引請村」に当たっていました。

天下の徳川将軍が食べる米ですから、それを作る農民の責任は重大でした。宝暦五年（一七五五）、幕領の村々が笠松陣屋の美濃郡代に提出した嘆願書から、御膳粉を作る苦勞を確認してみましょう。『各務原市史料編近世I』P六二九を抜粋し意訳、（内は筆者注）

「御膳粉を作る際には、土地を十分に吟味し、種粉を前年の秋からよく厳選します。『ちご弥六』とい

う特別な品種を作り、御膳粉用の特別な田を用意します。苗の頃から念入りに手入れし、刈り入れの時には他の稲と混じらないように気を付けながら刈り取り、『稲架』に数日間干します。秕（こぼり）（殻ばかりで実がない粉）は取り除き、新品の筵（むしろ）を敷いて脱穀します。粉を何度も千石通しにかけ、さらに一粒ずつ選別します。俵には表面の覆いを三重に巻きます。郷蔵（村の年貢米を収納する米蔵）で見本となる粉のお改めを受け、また覆い直します。俵に使つ藁（わら）に一つも刈り上げの時から厳選し、藁に付いたごみを取り払って作った俵を使います。俵を船に積み、江戸の御蔵へ上納しております。前々より念には念を入れて、大切に作っております。」

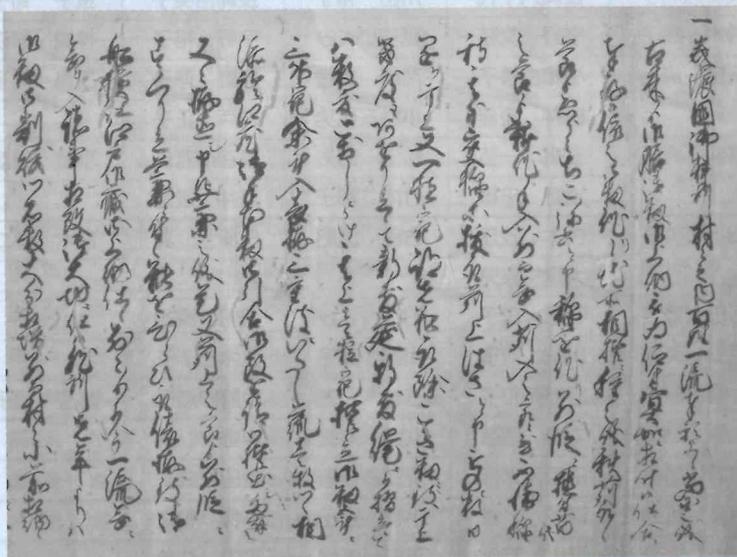
この資料からわかるように、御膳粉の生産、選別には、稲刈りなどで忙しい秋に時間と労力が必要であったため、農民の大きな負担となっていました。また、御膳粉には下肥が使えないことや、稲の病気である「いもち病」に弱いこともあって、安定した生産は難しいものでした。

そのため農民は、御膳粉の減免や、御膳粉を納入した代わりに与えられる「代米」の増額を美濃郡代に嘆願しました。

こうして大変な苦勞を経て生産された御膳粉は、

木曾川や長良川から船を使って伊勢国桑名へ、桑名から品川まで運ばれ、江戸城に届けられる、という仕組みになっていました。

その輸送から、将軍が食するまで、まだまだ様々な行程があります。それはまた次回、ご紹介したいと思います。



美濃郡代に提出された嘆願書

介護保険制度を上手に利用しましょう



介護保険によるサービスを受けるには、
介護認定を受ける必要があります!!!

対象となる方

- ①65歳以上の方 ②40歳以上65歳未満の方で、特定疾患のある方

介護認定が決まるまでの流れ

STEP 1 相談

本人または家族が、地域包括支援センター（各務地区はカーサ・レスパート）、市の介護保険課介護認定係に希望するサービスを伝え相談

認定審査が受けられそう

迷わないで、まず
相談してください

認定審査をうけられない

STEP 2 申請

本人、家族、代行人（地域包括支援センター、介護保険施設など）が介護保険課に

《必要なもの》

「介護保険証」、「健康保険証」（40歳以上65歳未満の方）

※「主治医の意見書」を書く医師が決まっている
必要があります

「基本チェックリスト」を受ける

※日常生活に必要な機能が落ちていないかを調べる

「要介護」、「要支援」は認定されません
※「介護予防・生活支援サービス」または
「一般介護予防事業」が受けられます

STEP 3 認定調査、審査・判定

【認定調査】

市の調査員が訪問して聞き取り調査（全国共通の調査票使用）

【主治医の意見書】

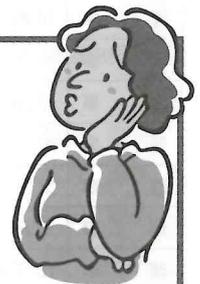
主治医が心身の状態についての意見書を作成

【一次判定】

コンピュータ判定

【二次判定】

介護認定審査会で(市が任命する専門家で構成)



STEP 4 認定結果の通知

結果は郵送で通知されます

介護区分

高

介護が必要な度合い

低

要介護
5

要介護
4

要介護
3

要介護
2

要介護
1

要支援
2

要支援
1

非該当

詳しくは地域包括支援センター（カーサ・レスパート Tel381-3800）
市役所介護保険課（Tel383-1970）におたずねください

by T.Adachi